日本コミュニティ心理学会

第２１回大会

コミュニティと心理学、
その１０年後を考える

Community and Psychology, for the Next Generation

会期　　２０１８年7月7日（土）・8日（日）

会場　　大妻女子大学　千代田キャンパス　本館

大会長　平野　貴大

大会参加者へのご案内

１．受付

第１日・第２日いずれも９：３０から受付を開始いたします。
受付場所は、３階Ｅ３６２教室となっています。学生の方は、学生証を携帯してください。

２．参加費等

大会参加費	一般会員	予約参加：６，０００円	当日参加：８，０００円
	臨時会員	予約参加：７，０００円	当日参加：９，０００円
	学生会員	予約参加：３，０００円	当日参加：５，０００円
懇親会参加費		予約参加：５，０００円	当日参加：６，０００円

３．名札

受付にて名札をお渡しします。会場内では必ずご着用ください。

４．クローク

３階　Ｅ３６２教室の受付横で承ります。貴重品は、ご自身で管理をお願いします。お預けになった荷物は、第１日目は１７：１５まで、第２日目１５：３０までにお引き取りください。

５．休憩スペース

４階４１５教室前に休憩スペースをご用意しております。お気軽にご利用ください。

６．昼食等

昼食等は各自でご用意ください。両日ともに大学内の売店、および周辺の飲食店が利用できますので、ぜひご利用ください。

７．喫煙

大妻女子大学の建物内は全館禁煙となっております。喫煙は、指定された場所でお願いいたします。

懇親会のお誘い

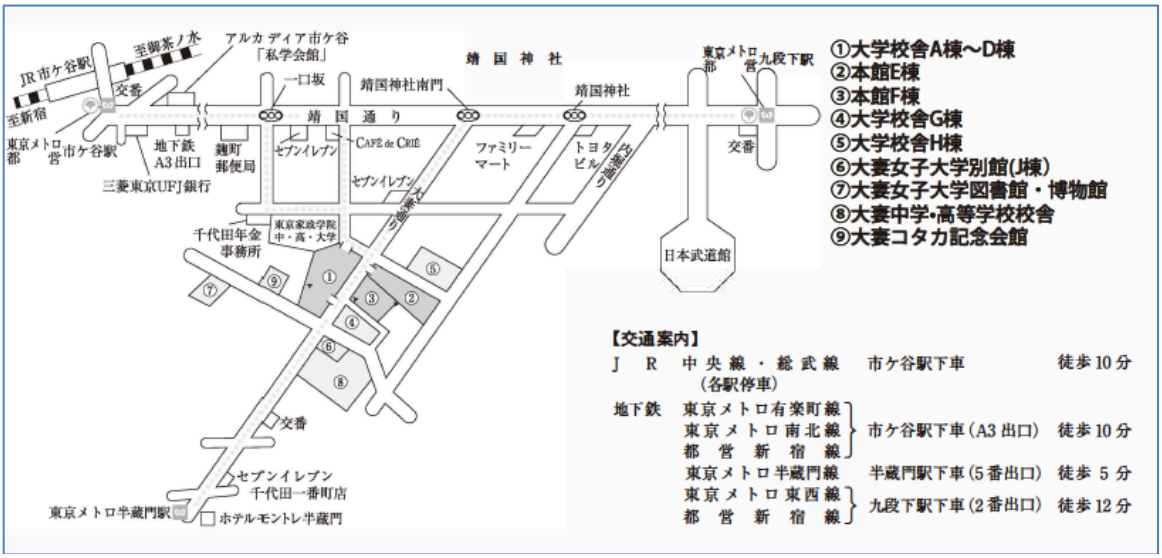
日時　7月7日（土）　１７：４５～１９：４５（１７：３０開場）
会場　ビストロ・ラフ（大妻女子大学千代田キャンパスより、徒歩５分）
千代田区一番町４−７７

参加費　予約参加：５，０００円　当日参加：６，０００円
※当日参加については、スペースの余裕がある場合のみ承ります。

交通アクセス

会場　　大妻女子大学　千代田キャンパス　本館（東京都千代田区三番町 12）
アクセス　　JR 総武線、東京メトロ有楽町線・南北線、都営地下鉄新宿線 市ケ谷駅　徒歩 10 分
東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅　徒歩 5 分
東京メトロ東西線・半蔵門線、都営地下鉄新宿線 九段下駅　徒歩 12 分
※キャンパス内には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。

会場案内



会場フロア案内

大会企画・プログラム

１．大会企画シンポジウム

日時　　７月７日（土）１３：３０～１６：３０
会場　　Ｆ３４２教室
テーマ　　多職種連携の中で心理職には何が求められるのか
　　～コミュニティ心理学的視点から、１０年後を模索する～
シンポジスト　徳丸　享氏（立正大学）
　　桑田　直弥氏（社会福祉法人みささぎ会　認知症予防自立支援推進室）
　　荊木　まき子氏（就実短期大学）
指定討論　　安田　節之（法政大学）
企画・司会　　平野　貴大（大妻女子大学）

２．自主シンポジウム・ラウンドテーブル

自主シンポジウム１　７月８日（日）１３：３０～１５：３０　会場　Ｆ３４２教室
自主シンポジウム２　７月８日（日）１３：３０～１５：３０　会場　Ｆ３３５教室
ラウンドテーブル　　７月８日（日）１３：３０～１５：３０　会場　Ｆ３３２教室

３．口頭発表

日時　　７月７日（土）１０：００～１１：３０　セッションＡ
　　７月８日（日）１０：００～１１：４０　セッションＢ
会場　　Ｆ３４２教室

４．ポスター発表

日時　　７月７日（土）１０：００～１１：３０　セッションＡ
　　７月８日（日）１０：００～１１：３０　セッションＢ
会場　　Ｆ３４４教室

５．院生・若手研究者の集い

日時　　７月８日（日）１１：５０～１３：２０
会場　　Ｆ３３２教室
概要　　大学院修士課程１年生～修士課程修了後３年未満の方（臨時会員も歓迎）
　　ドリンクと軽食を用意して、お待ちしております。奮ってご参加ください。

６．総会

日時　　７月７日（土）１２：００～１３：００
会場　　Ｆ３４２教室

７．役員会（理事・監事会）

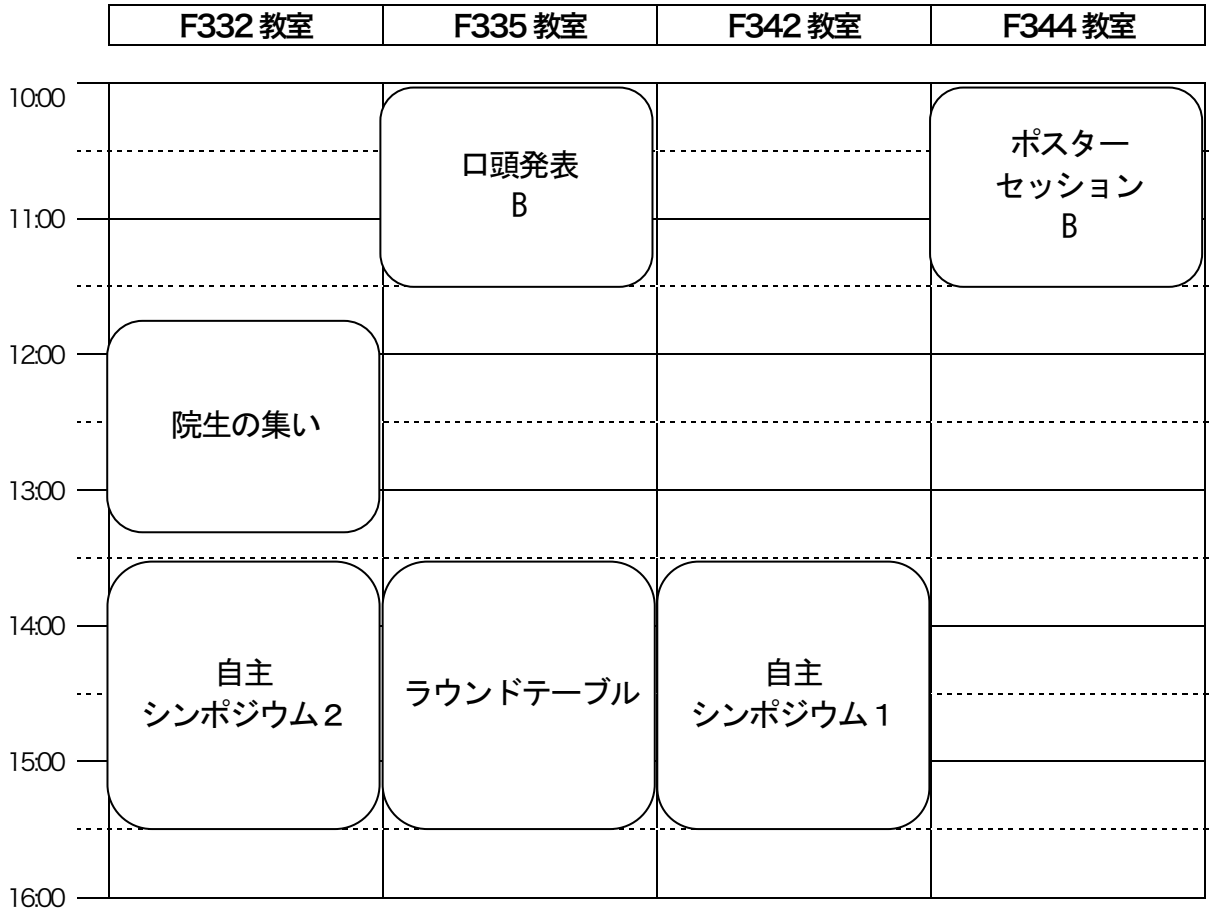
日時　　７月６日（金）１８：００～２１：００
会場　　上智大学６号館６階　心理学科会議室

大会日程

１日目

	Ｆ３４２教室	Ｆ３４４教室	ビストロ・ラフ
10:00	口頭発表Ａ	ポスター セッション Ａ	
11:00			
12:00	総会		
13:00			
14:00	大会企画 シンポジウム		
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			懇親会
19:00			
20:00			

２日目


F332 教室
F335 教室
F342 教室
F344 教室
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
口頭発表
B
ポスター
セッション
B
院生の集い
自主
シンポジウム２
ラウンドテーブル
自主
シンポジウム１

研究発表案内

Ａ．自主シンポジウム・ラウンドテーブル

受付：　会場に１０分前までにお入りください。

構成：　各セッションは、２時間で構成されます。

機器：　各会場にＷｉｎｄｏｗｓ７、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔ２０１３インストール済みのパソコンが設置されています。必要な場合は、各自で端末をお持ちください（ＶＧＡ，ＨＤＭＩ対応）データは念のためＵＳＢメモリでお持ちください。

資料：　当日、資料を配布される方は、各自でご用意ください。配布に関しては、会場係がお手伝いいたします。なお、資料回収を必要とする場合には、発表者が責任を持って回収・処分してください。

進行：　進行の詳細は、各自でお願いします。

Ｂ．口頭発表

受付：　会場に１０分前までにお入りください。

構成：　各セッションは、１時間３０～５０分で構成されます。

発表：　１件につき１５分以内

質疑：　１件につき５分以内

機器：　各会場にＷｉｎｄｏｗｓ７、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔ２０１３インストール済みのパソコンが設置されています。必要な場合は、各自で端末をお持ちください（ＶＧＡ，ＨＤＭＩ対応）データは念のためＵＳＢメモリでお持ちください。

資料：　当日、資料を配布される方は、各自でご用意ください。配布に関しては、会場係がお手伝いいたします。なお、資料回収を必要とする場合には、発表者が責任を持って回収・処分してください。

進行：　進行の詳細は、座長に一任されます。（※時間厳守でお願い致します。）

Ｃ．ポスター発表

受付：　会場に５分前までにお入りください。

構成：　各セッションは１時間３０分、在席責任時間は４５分で構成されます。

在席：　各セッションの在席責任時間中は、在席してください。

発表：　座長の進行に従って、発表・質疑応答・討論をしてください。

資料：　当日、資料を配布される方は、各自で必要部数をご用意ください。

形状：　横９０ｃｍ×縦１８０ｃｍの範囲に収まるよう作成してください。ポスター上部に、発表タイトル、氏名・所属を明記してください。

掲示：　受付で掲示に必要な文具をお渡ししますので、セッション時間内は指定の場所にポスターを掲示してください。

大会企画シンポジウム

１日目　７月７日（土）　13:30～16:30　F342教室

多職種連携の中で心理職には何が求められるのか
～コミュニティ心理学的視点から、10 年後を模索する～

シンポジスト	徳丸　亨（立正大学）
	桑田　直弥（大妻女子大学）
	荊木　まき子（就実短期大学）
指定討論	安田　節之（法政大学）
企画・司会	平野　貴大（大妻女子大学）

＜企画趣旨＞

公認心理師の資格制度の開始とともに、コミュニティ心理学という科目名ではないが、従来、コミュニティ心理学の中で取り上げられていた、多職種連携やコラボレーション、地域支援が必要な知識または技術として扱われるようになった。

公認心理師の第１回国家試験が９月に迫る中、現任者研修などの場ではチーム学校という言葉や、他の専門職、機関との連携など、多職種との連携が重視される傾向が強くなっていると言える。

本シンポジウムでは、心理職がコミュニティの中で何ができたのか。また、将来に向けて何ができるのか。コミュニティ心理学の視点を基に、コミュニティの中で心理職は何ができるのだろうか。

前半は、資格制度、教育、実践報告、現場のニーズなど、各種の視点からの報告を行い、後半はフロアとの意見交換などを通じ、将来の心理職のあり方やコミュニティ心理学の方向性について議論を深めたい。

＜口頭発表＞

口頭発表 Ａ　１日目　７月７日（土）　１０：００～１１:５０　Ｆ３４２教室

OA-1　セクシュアル・マイノリティ当事者の大学生における
所属するグループへのコミュニティ感覚 ―測定尺度の開発と関連要因の検討―
内山　ひかる　　杉並区立こども発達センター
久田　満　　上智大学

OA-2　父母教師会会長業務への臨床心理学の応用可能性－実践事例の検討－
板東　充彦　　跡見学園女子大学

OA-3　日韓国際結婚夫婦の葛藤場面における解決方略と原因帰属 および属性との関連
―日本人男性を対象とした量的分析―
平井　えり　　お茶の水女子大学博士課程

OA-4　親の教育価値観と子どもへの期待の関連
―日系ペルー人の世代による相違に着目して―
俵　加奈子　　国際交流基金日本語試験センター

OA-5　コミュニティ・ダイナミックスを生成する条件や姿勢について
竹森　元彦　　香川大学医学部

口頭発表 Ｂ　２日目　７月８日（日）　１０：００～１１:３０　Ｆ３４２教室

OB-1　大学におけるハラスメント相談の専門性

千賀　則史　　名古屋大学
葛　文綺　　愛知学院大学
小柴　孝子　　立教大学
山内　浩美　　立教大学
佐竹　圭介　　九州大学
深見　久美子　　名古屋大学

OB-2　定年退職後の男性における心の状態とその関連要因

小野　美月　　石神井公園クリニック
北　素子　　東京慈恵会医科大学
谷口　千絵　　神奈川県立保健福祉大学
久田　満　　上智大学

OB-3　地域と店舗の連携による防犯活動に関する研究（2）

―見守り活動の支援としての研修会の効果―

大久保　智生　　香川大学教育学部
久保田　真功　　関西学院大学
白松　賢　　愛媛大学
岡田　涼　　香川大学
金子　泰之　　静岡大学

OB-4　東日本大震災における臨床心理学的地域援助報告（2）

～支援者研修における２年目と７年目の参加者の記述の比較から～

佐々木　誠　　岩手大学

＜ポスター発表＞

ポスター発表 Ａ　１日目　７月７日（土）　１０：００～１１:３０　Ｆ３４４教室

在席責任時間：PA-1～3　10:00～10:45　　PA-4～7　10:45～11:30

PA-1　所属大学へのコミュニティ感覚および心理専門職への援助要請態度が
学内リソース認知と学生相談への援助要請意図に及ぼす影響

安田　みどり　　立教大学

PA-2 体育会に所属する学生におけるキャリア意識、就職後の職場適応および
企業への帰属意識に関する研究―追跡研究による調査結果を通して―

内山　雅子　　流通経済大学学生相談室

PA-3　抑うつ症状を呈する身近な友人への援助の実行回避の結果予期
―予期される利益とリスクに関する自由記述の分析―

河合輝久　　東京大学

PA-4　フィリピン・ビサヤ地方の貧困地区における
子どもの不就学に関連する心理社会的要因の検討

桑山　碧実　　国際基督教大学大学院
八田　直紀　　国際基督教大学大学院
笹尾　敏明　　国際基督教大学

PA-5　サードプレイスの利用は，生活満足度を高めるのか

岡本　卓也　　信州大学人文学部

PA-6　論争的問題の検討によるシティズンシップ教育とコミュニティ意識の変化

乾　明紀　　京都光華女子大学
高野　拓樹　　京都光華女子大学
朝倉　眞一　　まちひろば計画工房
三木　俊和　　まちとしごと総合研究所
加藤　千恵　　京都光華女子大学

PA-7　薬学生、まちに出る
地域活動参加が大学生のコミュニティエンパワメント意識に与える影響

吉永　真理　　昭和薬科大学
飯塚　祐介　　昭和薬科大学

ポスター発表 B　２日目　７月８日（日）　１０：００～１１:３０　Ｆ３４４教室

在席責任時間：PB-1～4　10:00～10:45　　PA-5～8　10:45～11:30

PB-1　同一病院に従事する看護師と介護士のコミュニティ感覚とバーンアウトの関係

前田　織枝　　北翔大学大学院

小坂　守孝　　北翔大学

PB-2　日本の医療機関利用における在留外国人女性の困難体験プロセス

～困難の要因と対策の検討～

田中　志歩　　上智大学大学院

安田　みどり　　立教大学

PB-3　学生相談における初回面接での連携の見立てについて ―事例の分析から―

山上　史野　　金沢工業大学

PB-4　大学教職員が学生に学生相談機関の利用を勧める際に感じる困難と工夫

木村　真人　　大阪国際大学

PB-5　高校生を対象としたProblem Based Learning型プログラムの体験分析

―習熟度別サンプリングによる体験の特徴―

三好　真人　　比治山大学

安田　節之　　法政大学

梅崎　修　　法政大学

椋田　亜佐砂美　サイボウズ株式会社

PB-6　大学生アスリートの社会性・情動コンピテンスと目標行動の関連

―社会性と情動の学習（SEL）フレームワークに基づく検討―

八田　直紀　　国際基督教大学大学院

小林　史明　　日本体育大学

邑木　隆二　　駿河台大学

笹尾　敏明　　国際基督教大学

PB-7　キャンパス多文化風土尺度の開発

大西　晶子　　東京大学

PB-8　多文化就労場面における元留学生の職務満足度と労働価値観、就労意識との関連

加賀美　常美代　お茶の水女子大学

小松 翠　　お茶の水女子大学

黄 美蘭　　首都大学東京

岡村 佳代　　聖学院大学

＜自主シンポジウム・ラウンドテーブル＞

自主シンポジウム１　２日目　７月８日（日）１３：３０～１５:３０　Ｆ３４２教室

コミュニティ心理学的視座に基づく実践研究に向けた「社会的コンテクスト」の再発見
(Taking Social Contexts More Seriously in Community Research and Practice)

企画・話題提供
笹尾　敏明　国際基督教大学
話題提供
八田　直紀　国際基督教大学大学院
桑山　碧実　国際基督教大学大学院
大内　潤子　北海道科学大学
GU　Yi　国際基督教大学大学院
指定討論
青木　多寿子　岡山大学教育学部

自主シンポジウム２　２日目　７月８日（日）１３：３０～１５:３０　Ｆ３３５教室

コミュニティ心理学におけるコンサルテーション：
　コンサルタントが葛藤を感じるケースで考える

企画・司会
榊原　佐和子　東北大学　学生相談・特別支援センター
企画・話題提供
大林　裕司　一般社団法人心理支援ネットワーク心 PLUS
話題提供
上田　将史　医療法人鉄蕉会亀田総合病院
郷　百合野　上智大学学生局カウンセリングセンター
大橋　智　東京未来大学

ラウンドテーブル　２日目　７月８日（日）１３：３０～１５:３０　Ｆ３３２教室

コミュニティ心理学的支援における他職種との連携　－「連携」の実践知とは－

企画・司会・話題提供
水野　治久　大阪教育大学
話題提供
飯田　敏晴　立正大学
中山　照雄　国立国際医療研究センター
石井　寛　ジャパン EAP システム

自主シンポジウム１

２日目　７月８日（日）　13:30～15:30　F342教室

コミュニティ心理学的視座に基づく実践研究に向けた「社会的コンテクスト」の再発見
(Taking Social Contexts More Seriously in Community Research and Practice)

企画・話題提供

笹尾　敏明　国際基督教大学

話題提供者

八田　直紀　国際基督教大学大学院

桑山　碧実　国際基督教大学大学院

大内　潤子　北海道科学大学

笹尾　敏明　国際基督教大学

GU　Yi　国際基督教大学大学院

指定討論者

青木　多寿子 岡山大学教育学部

＜企画趣旨＞

社会的コンテクスト（social contexts）の理解は、コミュニティ心理学的視座に基づき、効果的な介入を実施するための土台である。例えば、教育現場における様々な問題行動は、児童や生徒の個人レベルの心理的課題として議論しがちである。コミュニティ心理学では、より効果的な介入として、教師や他の生徒との関わり、地域との関わりなどに注目してきたものの、実践の介入や評価において、「社会的コンテクスト」は、実際の概念化や研究デザインに無視されてきた。本自主シンポジウムの趣旨は、介入における「社会的コンテクスト」の概念とその理解に注目し、今後のコミュニティ心理学の実践研究の発展に貢献していくことである。３人のコミュニティ心理学からの話題提供者により、「社会的コンテクスト」を、どのように変数化していくべきなのか、どのような理論的枠組をもとに、看護領域、スポーツ領域、産業組織領域、そして教育領域からの課題と挑戦を掲げてもらう。それを踏まえ、エコロジカル理論を基盤にする発達心理学の専門家に指定討論をお願いし、フロアとの議論や実践での課題の共有をしたい。

自主シンポジウム２

２日目　７月８日（日）　13:30～15:30　F335教室

コミュニティ心理学におけるコンサルテーション：
コンサルタントが葛藤を感じるケースで考える

企画・司会

榊原　佐和子　東北大学　学生相談・特別支援センター

企画・話題提供

大林　裕司　一般社団法人心理支援ネットワーク心 PLUS

話題提供

上田　将史　医療法人鉄蕉会亀田総合病院

郷　百合野　上智大学学生局カウンセリングセンター

大橋　智　東京未来大学

＜企画趣旨＞

2014 年の第 17 回大会より、コンサルテーションをテーマとした自主企画のシンポジウム・ワークショップを毎年継続して実施し、医療・教育・産業といった各領域における実践を具体的に紹介し、その特徴や意義などを検討してきた。そして、昨年の第 20 回記念大会においては、大会企画ワークショップとして、会員対象に行なったアンケート結果も踏まえながら、コンサルテーションの教育の在り方について、話題提供・議論を行ない、理論と実践との融合の必要性を考えることとなった。

コミュニティ心理学では、その中核となる価値観が理論と実践を導いている（ダルトンら, 2001）。そこで、今回のワークショップでは、コンサルタントが葛藤を感じる事例に対して、理論、コミュニティ心理学の価値観といった側面から解説を試みる。本シンポジウムを通して、コミュニティ心理学でコンサルテーションを扱う意味を考えてみたい。

ラウンドテーブル

２日目　７月８日（日）　13:30～15:30　F332教室

コミュニティ心理学的支援における他職種との連携
ー「連携」の実践知とはー

企画・司会・話題提供
　水野　治久　大阪教育大学
話題提供
　飯田　敏晴　立正大学
　中山　照雄　国立国際医療研究センター
　石井　寛　　ジャパン EAP システム

＜企画趣旨＞

　コミュニティ心理学的な援助を提供するためには，フィールドにおける他職種の方々との連携が鍵となる。例えば病院において看護師がコンサルテーションを求めて援助要請することがある。また，単純に，組織の様々な課題についてアドバイスを求めてくることもある。組織の中で援助を展開する以上，職場の方々のコミュニティ心理学的支援の「理解」が必要となる。この「理解」をどのように深めていけば良いのだろうか。そして，援助ニーズのある方々に援助を届けるためには，職場において誰とどのように繋がればよいのだろうか。こうしたことは，誰に聞けば良いのだろうか。どのような書籍を読めば良いのだろうか。本当の実践知は，現場で体験的で学ぶ部分が大きいのではないだろうか。このラウンドテーブルでは、話題提供者から自由に実践知を報告してもらう。企業，病院，学校場面においてどのような課題があるのかを参加された方とじっくり討論したい。

"

日本コミュニティ心理学会第２１回大会準備委員会

大会長	平野　貴大（大妻女子大学）
事務局長	岩渕　彩加（伊勢原市教育センター）
委員	石井　寛（ジャパン EAP システムズ）
	荊木　まき子（就実短期大学）
	安田　節之（法政大学）
オブザーバー	丹羽　郁夫（法政大学）
	久田　満（上智大学）